

団体名：子どもの未来を育てる「群」の会

様式第5号（事務取扱関係）

市民提案型協働支援事業実績書

補助金コース	ステップアップコース	
事業の名称	～子どもの未来を育てる「群」の会創立30周年記念事業～ 夢膨(ふく)らむ科学体験2016 “巨大クジラバルーンづくりに挑戦！”	
事業の成果	<p>○科学体験活動 大掛かりな創作活動に親子で取り組んだことは、共通の話題での親子の会話が弾んだり、思いづくりに寄与したものと考え。また児童の科学離れの解消にも幾ばくか貢献をさせていただいた。更に、今回は巨大な作品作りのため大人の協力が不可欠であったが、父親たちが積極的に製作に参加・協力していただいた。このことが、地域人材の発掘につながることを期待したい。</p> <p>○「群」の会創立30周年記念フォーラム 群の会では、ジュニアリーダー(中高生)の育成に力を注いできたが、このフォーラムでは現役のジュニアリーダーと各世代のジュニアリーダーOBがパネリストとなり過去の思い出や近況、更には将来の夢を語ってくれた。4人の演者が口をそろえたのは、「自分を認めてくれた先輩や大人の存在があったからこそ今の自分がある。」また、「自分のことしか考えず他者との関係を絶っていたが、地域活動をしていくうちに、もっとみんなの笑顔を引き出したいと考えるようになった。」「中高生の時からボランティア活動に取り組んでいたが、仙台の大学へ進学後に東日本大震災が発災。復興支援に貢献したいとボランティア活動に携わる。その関連から発展途上国に派遣され、最も過酷な環境で現地人と生活する経験をした。今後は途上で苦しむ人たちの役に立ちたい。」「幼い子供たちは温かい愛情を享受して育ていく。真の愛をもって幼児保育に携わっていきたい。」等々、それぞれの若者たちが真剣に本音で語った言霊が聴衆の心を揺さぶった。子どもにどう向き合い寄り添うかを改めて認識させていただく機会となった。</p>	
事業の実施状況	実施期間	第1回9月22日(祝)、第2回11月12日(土)、第3回12月3日(土)
	実施場所	第1回真城地区センター、第2回奥州市総合体育館、第3回市民プラザ・マッセホール
	実施内容	<p>第1回9月22日(祝) 奥州市内の親子と関係者100人が集結し科学体験活動を実施。児童はミニバルーンの製作を通して気体の性質や浮力について学び、大人は11月に実施する大型製作に備え中型のクジラバルーン工作に取り組んだ。</p> <p>第2回11月12日(土) 巨大クジラバルーンづくりに挑戦した。根気のいる長時間作業であるため、低学年向けには化学調理体験も取り入れた。また、ILCミニ出前講座を開設、推進員のトマス・アンナさんに講話をいただき、本ビジョンへの興味関心や理解を深めていただいた。</p> <p>第3回12月3日(土) 「群の会」創立30周年記念式典・記念フォーラムを開催。鎮守府八幡宮の菅原正明宮司から「青少年を地域で育む意義」と題して記念講話をいただく。また記念フォーラムでは、「培ってきた群の宝、さらに未来へ」をテーマにパネルディスカッション。ジュニアリーダー出身のパネリストとファシリテーターがふるさとへの思いや大人への願い、感謝を熱く語った。総参加者は40人</p>
事業実施における役割分担	提案者が担った役割	～子どもの未来を育てる「群」の会創立30周年記念事業～夢膨らむ科学体験2016 “巨大クジラバルーンづくりに挑戦！”事業の企画・運営全般。記念式典とフォーラムも実施した。
	市が担った役割	市民提案型協働支援事業補助金(ステップアップコース)の交付 ILCミニ出前講座の開設にかかるILC国際化推進員のトマス・アンナさんの派遣 水沢総合支所事務局(生涯学習スポーツ)職員の皆さんに準備段階で側面的な支援をいただいた。 農地林務課職員の方々には、巨大な横断幕や垂れ幕等の作成に多大な協力をいただいた。
	その他の団体が担った役割	特定非営利活動法人「夢追座」及び東北「桜屋」企画、水沢ジュニアリーダーズクラブJUMP…運営協力 奥州市水沢青少年育成市民会議、奥州市水沢区子ども会育成会連合会…事業周知
事業の見通し	ある研究者がネットをやめられない小5から高3の14人と一緒にネット断食キャンプを無人島で一週間実施。条件として一日1時間はネットを許すとしたところ、殆どの子がその1時間を待たずにネットから離れた。他に面白いことがあればネットに無関心になるということを証明したのだ。小学生も9割を越える子どもがネットにふれ、その弊害が深刻な課題になっている。当会では今後も青少年の健全育成を標榜しながら、体験活動の場の提供に努めていきたいと考えている。	
今後の課題	今回の大型製作は教本には対象年齢が中学生とあり、小学生の低学年児童には難しいプログラムであった。しかしながら、2回目の製作で大人が中心になって進めたことは大きな反省点であり、今後の課題としたい。「子どもの参画」を理念にしてきたことに立ち返り、活動していきたい。	

備考

- 1 事業の成果、事業の実施状況、事業の見通し及び課題は、詳細に記入すること。
- 2 事業実施に関する成果品、写真その他の参考資料を添付すること。

様式第2号(事務取扱関係)

市民提案型協働支援事業収支決算書

(単位:円)

1 収 入

項 目	予算額	決算額	増減額	説 明
補 助 金	157,000	157,000	0	奥州市民提案型協働支援事業補助金
自己資金	3,000	15,944	12,944	団体事業費より支弁
参 加 料	50,000	38,000	△12,000	参加者負担金 @1,000(2回分)×38人分
合 計	210,000	210,944	944	

2 支 出

項 目	予算額	決算額	増減額	説 明
報 償 費	75,000	52,400	△22,600	講師、パネリスト等謝金 50,400 パネリスト(高校生)謝礼品 2,000
旅 費	39,560	39,929	369	パネリスト等交通費 東京～水沢江刺往復 25,040 仙台～水沢江刺往復 9,060 北上～水沢間往復(2回分) 5,829
印刷製本費	66,690	66,750	60	チラシ印刷代、資料コピー代
消耗品費	25,870	34,108	8,238	科学体験活動用材料代(試作分含む)
使 用 料	2,880	6,420	3,540	第2回活動 Zアリーナ使用料
役 務 費	0	6,965	6,965	郵券代(ハガキ、切手)
会 議 費	0	4,372	4,372	フォーラム打ち合わせ用弁当と水代
合 計	210,000	210,944	944	